

澁谷政策調整統括官ぶら下がりの概要

日時：令和元年7月26日 17時30分～17時43分

場所：フェアファクスホテル1階

(澁谷統括官)

今週の水曜日から先ほどまで、日米貿易協定に関する事務レベルでの協議を行いました。3日間やったわけですが、もともと、6月末の大阪での前回の茂木・ライトハイザー閣僚級の会合の中で、事務方でいろいろ議論をさせようと、そのために、閣僚で議論すべき案件、それからオフィシャルレベルといいますが実務者レベルで議論すべき案件、それから、私クラスの次官級のハイレベルな事務方による協議と3つくらいに案件を仕分けし、そのうえで精力的に議論しようと、こういう話が大阪で合意されたわけではありますが、先々週ですか、梅本首席交渉官と私でUSTRに行きまして、向こうの窓口と仕分け作業をしたわけですが。これは閣僚で議論してもらおう、農産品のなかで難しい案件については、次官級で議論しようと。それ以外の案件は、農水省、経産省、財務省それぞれの担当者同士で議論させようと。こういう話が2週間前に、そういう仕分けをして、それに基づいて今回、今週、いろんなやりとり等は行ってきているわけですが、対面で議論したということになります。

水曜日に、まず朝、財務省の案件をこれ午前中やりました。それから午後、経産省の案件を議論して、水曜の午後の残り時間は農水省の案件の議論をして、昨日は午前中、農水省の議論をして、ちょっと長いブレイクがあって、夕方1時間ほどまた農水省の議論をしたということです。で、日米で所管が異なり、日本で農水省が所管している品目を工業担当がやっていたりとかですね、財務省が所管している品目を向こうの農業担当がやっていたりとかちょっと色々入り組んでるんですけど、日本の役所のそれぞれのカウンターパートと議論をしたということになります。本日はですね私と農水省から来てる大澤農水審と先方の次官級の幹部と特に農産品の中でハイレベルで議論すべきものを議論したということになります。この議論を行ったということは、閣僚協議がおそらく近いうちにあるということで、その閣僚協議で議論していただくための論点整理、それから閣僚で議論する案件というのはある程度仕分けされているのですが、それを議論するうえで事前に片づけておかなければいけない議論、そういった話を中心に議論をしたということになります。

閣僚協議はまだ日程最終調整中ですが、8月の中旬にやろうということは大阪でもそういう話になっていましたので、8月の中旬に行く方向で今最終調整中だと承知しております。

当然閣僚協議になりますと私も同行していくわけがありますし、各省もですね、今回は、先ほどUSTRの窓口と私2人で議論してきたんですけど、今回の事務レベルの成果を踏まえて、来週かどうかわかりませんが、8月の中旬にですね閣僚協議をやると、おそらく2

日くらいやることになるんじゃないかと思いますが、その閣僚協議の結果を踏まえて、やはり時間をおかずに事務レベル協議をやった方がいいんじゃないかという話になりまして、日にちは調整中ですが、閣僚協議の後に今回と同じような感じで事務レベル協議が行われる可能性が高い。その方向でこれから調整しようということになっています。

私から申し上げるのは以上でありまして、そのあとのもちかたとかですね、それも含め、8月上旬に行われる閣僚協議、その後の事務レベルで、8月上旬以降の議論の仕方なども話し合われることになるんじゃないかと思いますが、私からは以上です。

(記者)

今回の3日間の協議で成果といいますと具体的に、あの交渉中なのでお話しできる範囲で結構なんですけど、成果というところにあるんでしょう。

(渋谷統括官)

論点がずいぶん整理されたということだと思いますけれども。なかなかこの交渉は難しくですね、TPPのような交渉だと、TPPは、チャプターが30くらいあって、それぞれチャプターごとに分科会ができていて、交渉会合を重ねていくなかでこのチャプターはクローズした、このチャプターはクローズしたというのが段々でてくるわけですね。そうするとなんとなく、進捗具合がわかりやすいんですけども、30のうちいくつがクローズしたという感じですね。今やっているのは物品貿易が中心でありますので、この部分がクローズしたということはないんです。物品貿易はすべてがパッケージなんで、あれとこれがクローズしたということは概念上もないんです。したがって何パーセント進んだとかってなかなか言いにくい、というか、テクニカルにもなかなか言えない。確かTPP交渉の時に当時の甘利大臣が、もう交渉は8合目まで来たと言われて、そのあと実際には1年半かかっているわけですから、なんともどのくらいまで来ているのかって言いにくいんですけど、確実に申し上げられるのは、今回担当者レベル、ハイレベルの事務方の協議をやって、特にハイレベルでは非常に率直な議論をさせていただいた。私どもとしても様々な制約があるなかで議論しているということもきちんと申し上げましたし。そこは率直な議論ができたということが一番大きな点ではないかと思います。

(記者)

閣僚会合もまたやって、事務レベルもやるということですので、やはりそのゆっくり交渉するというよりは、加速させて合意に向かいたいという思いを持って両者やっているということが言えるのでしょうか。

(渋谷統括官)

5月、6月の日米首脳会談ですね、日米の首脳で、茂木・ライトハイザーの閣僚協議をどんどん加速させようということで5月も6月も両者一致しているわけですから、そこは

そういう流れだと思います。

(記者)

仮の話なんですけど、例えば9月の末ですとかその位のタイミングで何かしらの合意に至る可能性というのはどれくらいありますでしょうか。

(渋谷統括官)

それも、なんか昔TPPがまとまりそうな時にまとまる可能性が8割とどなたかがおっしゃって、まとまらなかったということがあってですね、これはよくわかりません。交渉というのは、合意する時期というのは、お互いがちゃんとこれできちんと国内に説明ができるという内容ですね、合意した時が合意の時期なんで、いつまでに合意するというのを普通は決めないですね。合意できる内容でまとまった時が合意の時期と、つまりよく交渉の世界でよく言われるのは、タイムラインが合意の時期を決めるのではなくて、サブスタンスが合意の時期を決めるということだと思いますので。まあ、早期に成果をあげるということは5月、6月の日米首脳会談で首脳同士が合意していますので、それを踏まえて精力的に議論しているということだと思います。

(記者)

逆にあとどれくらいの閣僚会議が必要だと思われませんか。

(渋谷統括官)

そうですね、私が昔経験したTPPの交渉と比較しても、事務レベルをやっている比率と閣僚協議の比率は、閣僚が圧倒的に多いような気がしますね。USMCAの時もかなりメキシコ等とは、かなり閣僚協議を相当重ねてこられたという話を聞いていますので、それはそういうスタイルなのかなと思います。あとどのくらいというのも、これはやはりお互いの議論が進んでお互いに合意できる内容にいつたどり着けるかということなので、これはちょっと今の段階では何とも申し上げられない。

(記者)

今回もともとその事務方、事務レベルで話し合う内容とすれば、対立点が少ないところを話し合っただけということだったと思うんですけど、そういう意味で米日の間ですね、だいぶ距離が、へだたりが埋まったのかどうかと辺はどうでしょうか。

(渋谷統括官)

そうですね、お互いの立場が非常によくわかったということがいえるんですが、この交渉の非常に難しいところで、物品はすべてがリンクしている、すべてがパッケージなので、こ

ことここだけ終わったというふうになかなかいかないですね。で、閣僚でやるような難しい問題がまだ残っているという状態ですので、それは置いてここだけ合意しようとはなかなかならないですね。ただ、この点とこの点が片づけばこの問題はそんなに問題なく終わるんじゃないかとか、この問題はむしろこの問題が解決しないとなかなか難しいねとか、そういうような論点が非常に明確に整理されたということではないかと思います。あの難しい案件と簡単な案件といいますけれど、簡単な案件はじゃあすぐ片付くかという、やはり全部セットなんでですね、なかなかそうはいかないという難しさがあるんです。で、簡単な案件だと思って議論したら、意外に簡単じゃなかったというのがよく往々にしてある話です。いずれにしてもそれぞれの担当が議論しましたが、最終的に茂木大臣中心にですね全体をご覧いただいて、国益を踏まえて、いつどうまとめるのかというのはこれからまた大臣とよく相談していきたいと思います。

(記者)

今日先ほどハイレベルな農産品について、これは日本が重要品目と位置づけて牛豚だとかそういったことについて話しあったという風に理解していいのでしょうか。

(渋谷統括官)

まあ、農業の中で、次官級で議論すべき話と、そういうことだと思います。